

# 1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年1月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1571000262
法人名	株式会社 コロネット
事業所名	コロネット 十日町
所在地	新潟県十日町下条2丁目644番地 (電話) 025-755-2221

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 19年 11月 7日

【情報提供票より】( 19年 10月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	13 人、非常勤 0 人、常勤換算 13 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 2 建ての 1、2 階 ~ 部分 造り
------	------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	無
敷金	有( 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり	800 円	

### (4) 利用者の概要 ( 19年 10月現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2		4 名	
要介護3	3 名	要介護4		2 名	
要介護5	2 名	要支援2			名
年齢	平均 84 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人山口医院・中条第2病院・中町歯科医院
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

里山の自然に恵まれた閑静な農村地帯に位置し、地域の中でゆったりとどかな生活がある。利用者の表情も穏やかで職員との方言を交えた会話には、長年馴染んだ家族のような安らぎがうかがえる。運営母体は株式会社であり、本事業設立から携わり役員でもある管理者の高い理想のもとに運営されている。利用者の思いを大切にすることを最優先に掲げ、管理者は現状を的確に捉え、より質の高いサービスを目指して常に模索し続けている。職員の充足や資質、設備の管理などにも長期的なビジョンを持ち、さまざまな試みを実践に結びつけるよう努力している。開設時から耐震構造とした建物は2回の地震にも耐えることができ、その後もさらに強化した。また、廊下の手すりを利用者の自立目的のりハビリ用に最小限にとどめるなど、設備面での工夫も随所に見られる。職員の質の向上には特に力を入れており、希望があれば県外や外部の研修会にも積極的に参加できるようにし、職員もそれに応えるべく努力している。地域との関わりでは、行事やイベントを相互に参加しあったり、中高生にもボランティア活動を通じて認知症の知識の普及に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念の啓発や地域とのかかわりについては、広報誌(コロネット通信)を発2回発行し、地域へ戸別に手渡しして配布している。介護計画への入居者、家族の意見も可能な限り、面会時や電話などで聞き取るよう努力している。家族への日常の様子も家族新聞の発行などで情報提供したり、ホーム内に日々の生活をそのまま撮ったスナップ写真を貼り、外部からの訪問者にも様子が分かるようになっている。また緊急時の職員の対応については緊急マニュアルの見直しをしたり、機会を捉えて研修会に参加するよう心がけている。前回評価で改善を求められた空気のとよみ、においについてはまったく感ずることができないほど改善されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員がそれぞれの立場で、現状を直視し、反省する点などを再確認の機会ととらえ、評価の改善事項を真摯にう受け止める姿勢がうかがえる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は定期的に開催されている。家族から会議に出させていただくことで思いや意見を直接聞くこともできたり、行政担当者などからも外部の情報を得ることができている。また、委員のメンバーとして弁護士が参加しており、心強い。メンバーになっていない家族にも会議の内容を伝達している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族に対して、それぞれの利用者について日々の生活や健康状態、金銭の報告など情報提供をしている。しかし、家族から意見、不満、苦情などを聞き取る機会がなかなか持ておらず、また、暮らしぶりや医療面などについて家族と率直に話し合う場面があまり多くない。共によりよい支援を目指す意味からも、より積極的に機会、場面を作り、意見を聞き取れるよう工夫することが望ましい。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設後5年経過しており、地域に根付いたホームとなっている。気候のよい季節であればほぼ毎日、近くの神社など地域内を散歩する姿が見られており、地域の人たちとも顔なじみになっている。季節ごとの行事への参加やボランティア受け入れ、広報誌の配布などで地域との関係は一層良好になっている。</p>

## 2. 評価報告書

(   部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
	1	地域密着型サービスとしての理念	認知症を正しく理解し、利用者の尊厳を守り、有する能力を可能な限り活かして自立した生活を支援することを理念に掲げ、職員がそうなった時に選びたい介護を目標にしている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員一人ひとりの気づきの中から具体的な理念や目標が創出されることを求めているが、具体的にどのようなものを求めているのが明確ではなく、管理者の考えが職員に十分に伝わっているとはいえない。		利用者一人ひとりの生活をホームがどのように支えるのか、理念を確認し合い、具体的な実践につなげるためにも、管理者と職員とが想いを共有できるようさらなる取り組みを期待したい。
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	家族・地域に向けた広報紙を発行している。ホームについては徐々に理解されつつあるが、理念が浸透するまでには至っていない。		事業所の掲げている高い理念を、具体的な分かりやすい文で、家族、地域に伝える取り組みを期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	3	5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の神社の祭礼やどんど焼きなど季節ごとに地域行事に参加して、積極的に交流を図っている。認知症を理解してもらうための中学生、高校生のボランティア受け入れや、来年度は認知症サポーター100万人キャラバン事業の立ち上げも企画するなど、地域の絆を深めるため多面的に活動を広める努力をしている。広報誌を発行し、手渡して地域に配布している。		
	4	7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を、日々の支援内容を振り返り見直す好機と認識している。地域向け広報誌の発行など、前回評価での改善点を実行につなげている。また、今回の自己評価も職員自身が真摯に取り組んだ。		
	5	8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はほぼ2ヶ月ごとに開催されている。家族から会議に出ただくことで思いや意見を直接聞くこともできたり、行政担当者などからも外部の情報を得ることができている。また、弁護士からもメンバーとして参加してもらっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設当初は市との連携が円滑になされており、介護教室開催などに市の助成があったが、近年市合併などから予算削減のありを受け疎遠になっていた。最近、介護認定などの事案から系列の居宅支援事業所を経由して繋がりが回復し、連携を密にする手がかりとなっている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待の意義を充分理解し、職員に対し継続的にその意図を伝えている。重度化し寝たきり状態になった入居者を寝たきりのままにすること事態が虐待であるとの認識も持ち、なるべく起きて過ごしてもらうようにしている。ミーティングで話したり、散歩時にも虐待につながる行動がないよう努力している。近々外部研修があり、数名の職員が参加する予定になっている。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	預かり金の出納状況や暮らしぶり、健康状態などを、月1～2回程度定期的に報告している。頻繁に面会に来られる家族だけではなく、遠方にいたりなかなか訪問できない家族にも電話などを利用して報告を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見、不満、苦情などを聞き取る機会がなかなか持ていない。暮らしぶりや医療面などについて家族と率直に話し合う場面があまり多くない。		家族は預かっていただいているという感謝の念が強く、苦情、不満などを伝えるにくい場合もあるということも考慮し、家族の意向を吸い上げる方法や場面をできるだけ多く設けられるよう期待したい。
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議やミーティングがあり、職員は日々の業務や支援内容について率直に意見を言うことができる。また、日常的にも管理者は職員の相談に気軽に応じている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は異動による利用者への影響を充分理解しており、また小規模の事業所であるため、職員の異動は最小限にとどめている。職員のほとんどがホーム開設時からいる職員であり、利用者との馴染みの関係が作られている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	ケアマニュアルをはじめ、救急救命関係、施設内消毒など各種マニュアルが整備されており、内容は周知されている。見直しもされ、避難訓練マニュアルなどには反省点、改善点の記載欄があり、有効に活用されている。		

外部	自己	項 目	(実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員育成に熱心に努めており、機会を捉えては研修の実施を職員に勧めている。職員の質の向上を図るため、レベルアップ、スキルアップに適した県外の外部研修にも積極的に参加するよう働きかけている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域全体のネットワークが構築されており、管理者が参加している。管理者は地域の他同業者との情報交換を前向きに捉え、よりよい支援につなげるよう努力している。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者、職員間の関係が良好で、何でも言える雰囲気ができている。また年2回程度親睦会が計画されており、事業所外での気分転換も図られている。		
<b>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し入居が3日から1週間程度行われており、本人の意思を尊重し家族とも十分に話し合い、本人が納得した上で入居決定をいただいている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や調理時の野菜の皮むき、食後の食器洗いなど、利用者一人ひとりにできることをしてもらい、その中から喜びを感じていただいている。特技を持っている利用者の作品や共同制作の作品などを掲示したり、午後のお茶の後に皆で楽しそうに懐メロを歌うなどしていた。職員も昔の生活の伝承などを利用者から教えていただくこともあり、感謝の気持ちを持ちながら、ともに支えあっている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族等の訪問を積極的に受け入れ、共に利用者を支える関係づくりに努めている。また、利用者の状況について家族や親戚の方からの情報を得て、ケアに活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味の作品作りや、散歩、入浴など一人ひとりの希望に添うよう努力している。また、花見や七夕会、カラオケ大会など希望を取り入れたイベントが頻繁に実施されている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにセンター方式を一部取り入れるなど、ひとり一人の生活歴を把握し、馴染みの暮らし方ができるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心にミーティングを行い、家族が訪問されたときの話も取り入れながら、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しの他に、体調変化などに応じて介護計画の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師を配置するとともに医療機関との連携を密にとり、利用者が重度化した場合にも適切な医療が受けられる体制となっている。法人内のデイサービスと連携して、利用者同士の交流や催し物への参加等も柔軟に行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医との連携を持ちながら、事業所として地域の開業医、総合病院、歯科医の協力を得ている。特に認知症に造詣の深い精神科医との連携を密に持ち、症状が重度化した際など適切な診療が受けられる体制ができている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、入居者本人の希望を最優先に捉え、その認識の上で、家族、事業所職員が十分な検討と対応ができる体制になっている。開設以来看取りを経験しており、常勤の看護師、職員がターミナルに対する共通認識を持ち、要介護度の高い入居者、家族の安心につながっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室入室の際のロックや入浴時、着替えの時など、利用者一人ひとりに対するきめ細かな配慮がなされている。個人情報に関しては契約書に明記し、使用に関わる同意書も提出してもらい、適切に管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとり一人の状態を把握し、適切な支援を行っている。趣味の手仕事や散歩、買い物、畑での野菜作り、花だんの世話など希望に添った過ごし方を支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本部で作成した献立を基本にし、ホームの各ユニットごとにアレンジして、利用者と一緒に調理をしている。利用者と職員と一緒に食事をとっておらず、検食者のみが同時に食べている。管理者の意向により、他の職員は利用者の見守りや介助などの支援に専念する状態になっている。		前回、前々回の評価もあり、再度検討をお願いしたい。管理者の誤嚥や予測不可能な事故などに対す見解も理解できるが、ともに食事を取ることの喜びなどの利点も再確認してほしい。管理者は利用者、職員の意向を重視するとの考えも持っておられるでは是非見直しを期待したい。
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各ユニットにトイレが3箇所ずつあり、利用者一人ひとりの状態にあわせ、適切な支援をしている。排泄の自立の方が少なくほぼ全員が何らかの形でオムツ使用になっているが、気持ちよく排泄できるようトイレ誘導やおむつ交換に気配りをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者ひとり一人の希望を聞き入れ、その意向に添うよう配慮している。利用者の中には入浴を嫌がる人もあるが、無理強いすることなく、上手に誘導して入浴を楽しんでもらえるよう支援している。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や家事の手伝いなどに、できる範囲で利用者から関わってもらっている。また、日常的にマンネリに陥らないようメリハリをつける意味で、さまざまなイベントや行事を取り入れ、花見、七夕など季節の行事を実施したり、近隣の神社祭礼などにも参加している。楽しそうな写真が壁などに貼られていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周囲がのどかな田園地帯であり、散歩に適した環境になっている。利用者がひとりで自由に散歩に出かけることもあり、職員は充分な気配りをしている。また近くのスーパーなどに日用品の買い物に出かけることもあり、楽しみとなっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の意味を充分理解し、拘束はしていない。要介護度の高い入居者も寝たきりにならないよう食事の際には車椅子を利用し食堂に出てもらっており、その場合も拘束はせず、危険のないよう配慮している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵はかけていない。2階ユニットのドアと玄関に人の出入りを感知するチャイムが設置されている。外に出られる方がいるときは、職員が一緒について出かけている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを整備し、消防署より救急法を指導していただいたり、事故防止に努力している。事故報告書、ヒヤリハットを記録している。利用者が一人で外へ出られた場合には、警察や消防署と連携する体制をとっている。		事故報告書、ヒヤリハットは反省点、改善点までの確に記録されているが、さらにその事故を検証する意味で、一定の時期が経過した時点で、改善点が活かされたか否かを評価してはどうか。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	日本赤十字社や消防署の救急救命法の研修を定期的に受けている。常勤の看護師や管理者などへの急変時の連絡、応急処置の対応ができています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	2回の地震の経験を踏まえ、家具の転倒防止器具取り付けなど建物の安全対策は充分なされている。また地域と連携しながら自主防衛組織の立ち上げなども検討するなど努力している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの観点から、本部で1年分の献立を作成している。それをベースに地域の食材を取り入れたり、各ユニットごとにアレンジを加えるなど、おいしい食事作りに努力している。また一人ひとりの健康状態を見ながら摂取量を調整するなどの配慮をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は、温かみがあり普通の家庭の雰囲気がある。壁面には季節感を出した様々な装飾があり、その時々写したスナップ写真が大きく貼ってあるなどやさしい雰囲気が伝わってくる空間になっている。浴室、トイレなども危険が無いよう細かい配慮がされており、安心して日々の生活を送ることができる。空気のとどみやにおいはまったく感じられなかった。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には介護ベッドと衣装ダンスが備え付けられているが、利用者一人ひとりの馴染みの家具、物品があまり見られなかった。馴染みの古いタンスやイスを持ち込んでいる方もいたが、全体的に不足しているように見受けられた。</p>		<p>これから迎える冬の季節には、利用者は外出が限定されるため居室での時間が長くなることから、今一度居室の雰囲気作りに配慮されることを期待したい。家族に働きかけ、馴染みの物、置物ひとつでも入れていただいたり、壁に家族の写真や好みの絵や書などを掛けるなど工夫されてはどうか。</p>